

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ルフレいなぎ 児童発達支援事業所			
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日		～	令和7年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51	(回答者数)	33
○従業者評価実施期間	令和7年11月1日		～	令和7年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月8日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもたちの発達段階や、一人ひとりの得意なこと・好きなことを遊びや活動に取り入れ、こどもたちが“楽しそう”“やってみたい”と主体的に遊べるように工夫している。	・こどもたちの発達段階や、得意なこと、好きなことをアセスメントした上で、遊びや活動を提供している。 ・遊びや活動、イベント内容は決まった形ではなく、参加するこどもの姿に合わせて柔軟に変えている。 ・こどもたちが“楽しい”と感じられる遊びや活動の設定を職員全員で話し合い、アイディアを出している。	・引き続き、一人ひとりのこどもの得意なこと・好きなことを遊びや活動に取り入れていく。 ・こどもたちの遊びに合わせたエリアやグループ分けを行い、より遊びを充実させていく。
2	外部のスーパーバイザーやオンブズマンを導入し、支援の質や権利擁護意識の向上に努めている。	・グループ療育、個別療育に年6回スーパーバイザーの方に訪問してもらい、実際の療育の現場を見てもらった上で、アドバイスをもらい、支援の質の向上に努めている。 ・オンブズマンの方に年2回療育の現場を見てもらい、権利擁護とリスクマネジメントの視点で助言をもらっている。	・引き続き、外部のスーパーバイザーやオンブズマンの訪問を継続し、第三者からの助言を支援に活かしていく。 ・事例検討会や勉強会など、事業所内でできる取り組みを増やしていく。
3	職員間の協力や相談がしやすい職場環境にある。	・事業運営や支援内容、イベントなど、職員全員で意見を言い合い、お互いの意見を尊重しながら決めている。 ・職員全員で事業所を作りあげる意識がある。 ・グループ療育は担当制ではあるが、日頃より事業所全体で情報共有をすることで、担当スタッフのお休みの際もスムーズにサポートができるようにしている。	・引き続き、協力・相談しあえる関係性を大切に、さらなる支援の質の向上を目指す。 ・一人ひとりの職員が自分にできることを行い、職員全体で事業運営を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々の全体振り返りや朝のミーティング等で支援についての共有は行っているが、個別支援計画書の共有が曖昧になっている。	・個別支援計画書を共有するための会議がない。	・個別支援計画書を共有するための会議を実施する。 ・クラスの業務日誌の書式を変更し、支援目標と活動内容が一目で分かるようにする。 ・個別支援計画書を個人ファイルだけでなく、クラスの業務日誌にもファイリングすることで、すぐに確認できるようにする。
2	記録やクラスの振り返りができない日もあり、支援の検証が不十分である。	・研修や会議、イベント準備、面談などでクラスの振り返りができないことがある。 ・クラスの業務日誌にこどもの様子を記載しているため、こども毎に振り返ることが難しい。	・クラスの振り返りは時間を決めて実施する。実施できない場合は、終礼時にクラスの日誌を記載する。 ・クラスの業務日誌の書式を変更し、業務日誌に記載したこどもの様子が個別の記録に転記されるようにシステムを整え、こども毎に支援の検証ができるようにする。
3	こどもたちが所属している園には、必要に応じて訪問をし、情報共有をしているが、併用している他事業所との情報共有は不十分である。	・他事業所と個別支援計画書や支援内容の共有ができていない。 ・セルフプランの利用者がほとんどであるため、サービス担当者会議の開催がなく、情報共有の機会がないこと。	・所属園への訪問や保育所等訪問支援事業担当者との連携などは継続して行っていく。 ・保護者を通じ、個別支援計画書の共有や支援プログラムの内容を共有する。 ・保護者の希望や必要に応じて、他事業所と直接情報共有等を行う。